

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

389号

2023年8月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

停戦70周年、今こそ平和を ～停戦70年朝鮮半島平和大会に参加して～

●歴史とともに平和行進

「停戦70周年朝鮮半島平和大会」に韓統連母国訪問団の一員として参加した。

7月22日午後4時、ソウル市庁東側広場から平和行進が始まった。鐘路を経て光化門広場までの約1時間、ソウルの目抜き通りを行進した。主催者から渡された大きな横幕には英語で「END THE KOREAN WAR NOW! (今こそ朝鮮戦争を終わらせよう)」と青い文字で描かれていた。青色は平和を象徴する色だ。

停戦協定には①平和的解決が達成されるまで、一切の敵対行為と武力使用を停止する。②3ヶ月以内に平和協定締結のための協議を開始するという2つの重要な項目が明記されていたが、いずれも実行され

られないまま70年が経過した。停戦協定は平和協定までの過渡的なものに過ぎず、朝鮮戦争は今も続いている世界で一番長い戦争なのだ。

広報車のアナウンスにあわせて韓国語でスローガンを叫んだが、時々英語と日本語も交えた。「敵対を止め今、平和を!」「韓米合同軍事演習を中止し、対話の門を開こう」のシュプレヒコールがビルの谷間に大きく響き、市民の反応も良かった。車から手をふる人や沿道から拍手する人の姿も見えた。平和行進が街と一体化しているように思えた。

停戦70周年の2023年7月22日。今、私はソウルの真ん中で朝鮮半島の平和を叫んでいる。私の隣には宋世一(ソン・セイル)韓統連委員長、そして、その隣には元在日政治犯死刑囚の李哲(イ・チョル)ウリ民主連合会長とパートナーの関香淑(シ・ヒャンスク)女史がともに行進されている。今、私は

歴史とともに生き、歴史とともに行動している。何かしら熱いものがこみあげてきた。

●雨の中の平和大会

平和大会は5時20分頃、光化門のソウル歴史文化博物館の近くの道路で開催された。

主催団体や国会議員の挨拶などに続き決議文が採択され、韓統連訪問団も舞台上に上がり、日本からの参加団体の一員として紹介された。印象に残

ったのは2年前に京畿道高陽市の漢江付近で地雷により右足首を失われ、義足で登壇されたキム・チョルギさんだ。彼は「私たちは分断国家に生きているということをおぼえていた。ただ停戦協定があっただけで、終戦宣言をできずに平和協定を結べていなかったという

ことを忘れていた。これからは右の足を分断の現場に埋め、統一のために闘う平和の運動家になる」と力強く語り大きな拍手を受けた。

バンド演奏、合唱と続き、大会は盛り上がった。「統一列車」もあり、私もその輪の中に入った。途中で雨が降りだし、一時はどしゃぶりの時もあったが、大会は中断されることなく、熱気は冷めることはなかった。私は、悪天候の中で貫徹したこの平和大会に未来を感じた。そして私もその一翼を担えたことに充実感と達成感、幸福感をも覚えた。尹錫悦政権下の厳しい時代ではあるが、朝鮮半島の平和は必ず実現できる。私は今、より一層の自信と確信をもって声を上げる事ができる。

「END THE KOREAN WAR NOW! (今こそ朝鮮戦争を終わらせよう)」。

(金隆司)



▲平和行進を行う金隆司代表委員(右から二人目)

【訪韓団感想文①】「休戦70年朝鮮半島平和大会」訪韓団に参加して

日韓平和連帯訪韓団団長 西山直洋

5年ぶりの訪韓。関生弾圧での1年間の拘束、コロナ、文在寅大統領から尹錫悦大統領へ、そして尹政権による民主労総建設労組大弾圧の中での訪韓で思いは高まる中、7月21日～24日の韓国訪問であった。

初日にホテル前にあるソウル市庁前の梨泰院(イウォン) 惨事犠牲者の焼香台を訪れ焼香。韓国人たちのこの惨事に対する「ただの事故」にさせない思いを感じさせられた。たまたま訪韓していた9年前の「セウォル号沈没事故」をよみがえらせた。新自由主義が進む中での資本権力の横暴に対しての社会的責任追及の在り方は、日本社会にも必要な取り組みであり、民衆の声、力こそが世の中を正常化させる原動力になっていることを学ばせてくれる。



▲ソウル市内を行進する西山団長

22日は西大門(ソデム) 刑務所歴史館へ。李哲(イ・ Chol)さん(在日韓国人良心囚・元死刑囚)の収監されていた時の解説つきの参観。その後は駐日本大使館前の「平和の少女像」へ向かった。建設中、日本大使館(まだ工事している)前の少女像へ向かう途中の現日本大使館が入るビル前で抗議のシュプレヒコールをあげ、少女像の場所へ。

警察の慌てぶりと厳重体制が今の政権下であることがわかった。もう一つは「平和の少女像」だ。少女像前は鉄格子で囲まれていた。「何故だ」と思い確認したら、右翼に攻撃されないように警察が監視しているとのこと。これも分かりやすい現政権のやり方だと感じた。その横には日よけテントで学生が少女像を死守していた。これで日本岸田政権とドブプリな尹政権の思惑が鮮明に理解できた。

その後、世宗文化会館前での記者会見では、日本から来た平和フォーラムの団と合流して日韓平和連帯からもアピールをさせてもらった。

そして本番の大打進だ。ソウル市内各地で集会

を行った団は一路、光化門前の集会場まで行進し、本大会へ。

韓国は各地で洪水被害も出ているくらいの雨で、大会時は本降り状態であった。その中でも大会は継続され、日本の代表団からのアピールもさせてもらった。記者会見同様、この大会では日本で今、おこなわれようとしている核汚染水海洋放出問題も発言した。日本政府と東京電力が結託し、現地の漁連組合や市民の意見を聞かず、勝手に進めようとしているこの問題は、韓国の民衆も反対しており、大きな問題となっている。このことを私たち日本人は日本国内でもっと多くの民衆に伝えていかなくてはならないと韓国に来て思わされた。

23日はDMZ 平和行動として非武装地帯へ、臨津閣から新しくなったDMZ 展望台を見学。その晩は韓国進歩連帯の同志たちとの最後の晩餐。固い連帯を築き、日韓連帯で東アジアの平和へ向けて進むよい訪韓となった。

最終日は全港湾の仲間とともに全泰壺(チョン・テイル) 烈士の像へ行き、韓日の労働者連帯も強めていかなくてはならないと誓った。

今回の訪韓で久しぶりに出会った建設労組のチャン・ヒョンチャン同志や民主労総副委員長のキム・ウニョン同志たちとも出会うことができ、ますます日本でやらなくてはならない取り組みを考えさせられた。

今、一部の権力者によって労働者、民衆を無視して進められようとしている戦争政策にNOの声をあげ、分断政策にも対抗し、平和で差別のない社会を目指さなくては、私たちの未来は来ないと思う訪韓団だった。参加者の皆さんお疲れさまでした。そして日本で岸田打倒の闘いを本気でスタートさせましょう！ 투쟁！

【訪韓団感想文②】

感動の3日間だった

中山 茂

初めての韓国だった。外国に行くのは50年前の学生訪中団以来だ。

「停戦は70年で終わりだ。平和協定を締結せよ」の声が充満していた。受け入れの韓国進歩連帯関係者の熱情あふれる対応に感動した。

ソウル市庁前の梨泰院犠牲者の焼香台、西大門刑務所歴史館、DMZの臨津閣への参観は感動的で意義ある活動だった。「平和の少女像」が遮断壁で囲まれていたのには怒りに燃えた。



▲梨泰院惨事犠牲者を追悼する訪韓団

訪韓団のメイン活動である「停戦70年朝鮮半島平和大会」は、事前集会への参加から素晴らしい感動の連続だった。事前集会場からデモをし、ソウル市庁前に向かった。もう、この時点で人が溢れていた。市庁では幹線道路の半分を埋めつくし、さらに人が溢れていた。私たち外国からの団は、デモの前方に案内された。元気のいい、おそろいのゼッケンをつけた女性の隊列が眼をひいた。YWCAの行進団だった。

1時間ほどのデモに出発した。沿道の人たちの反応もいい。拳を上げる人も多かった。朝鮮語のスローガンは分からないが「WAR—NO」「PEACE—YES」などはわかる。日本語でのシュプレヒコールも叫ばれた。

いよいよ光化門広場の会場に到着した。手前の民族の英雄李舜臣(イ・スンシン)将軍の像が眩しい。広場は道路が半分ほど遮断壁で規制されていた。押し込められている雰囲気だった。以前、参加した人に聞くと、もっと広がったそうだ。

開始冒頭の4人の代表者の挨拶も力強い(意味

はわからず)。若い人たちの太鼓も素晴らしかった。



▲今回、初めて訪韓した中山さん

大会の途中から豪雨となった。しかし参加者は微動だにしない。この集中力もすごい。韓国大衆闘争の底力というか気概を感じた。そして我が訪韓団の事務局が参加者に丈夫な傘を配っていた。これも感動的だった。近所のコンビニから買ってきたという。訪韓団の多くの人が折り畳みの傘を持参し、カッパも持ってきていた。しかし、あの豪雨で判断されたようだ。確かに下着までずぶ濡れだった。

最後の大会代表団の挨拶も素晴らしかった。横の韓統連の人に要旨を聞いた。私たち外国の参加者も登壇して代表が発言した。

最後の最後、私たちが帰る頃、壇上に100人ほどが上がり合唱していた。最後まで緊張感あふれる集会だった。

終わって晩さん会の途中、現地のスタッフの方も参加した。ずぶ濡れになりながら通訳していた人も笑顔で参加していた。疲労も極点に達していたと思うが、あの笑顔。韓国大衆運動の未来を感じた。

素晴らしい出会いと感動的な日々。本当に関係者の皆さんに感謝したい。

第3回DMZ国際平和大行進参加報告

崔誠一(チェ・ソンイル)

今年、朝鮮戦争停戦協定締結70年を迎え「第3回DMZ(非武装地帯)国際平和大行進」が7月12日～22日まで行われ、崔誠一韓統連副事務長と韓成祐(ハン・ソウウ)韓青中央本部委員長が7月19日～22日の日程で参加しました。

平和大行進は、韓国の東端にある高城(コソウ)から江華島(カファド)までの約400キロをバスと徒歩で移動し、米軍基地や南北分断の象徴とされる場所のフィールドワークを行いました。

私たちは18日にソウルに入り、19日のお昼に行進団と合流、簡単な歓迎式が行われました。歓迎式ではチョ・ホンジョン総団長から行進団が身につける帽子・ベスト・統一旗・タオルなどが伝達され、私たちは抱負を述べ、行進団のメンバーから暖かい拍手で迎えられました。そして、いよいよ行進が始まりました。

行進団の主なスケジュールは、午前中は主にフィールドワークを行い、昼食後、徒歩で行進、夕方バスで宿泊先(キャンプ場)に移動して夕食・就寝という日程でした。

20日は午前中、米軍第2師団がある東豆川(トドクサチョン)市を訪れ、1992年に米軍兵士に殺害された尹今伊(ユン・グミ)氏の殺害現場で現地活動家からの解説を受けるとともに、行進団全員で哀悼の意を表しました。その後、議政府(ウジヨングプ)市に移動、2002年に米軍装甲車でひき殺されたシン・ヒョスン氏、シム・ミソン氏を追悼・記憶する平和公園を訪問しました。この事件は不平等な韓米関係を象徴する事件として当時、韓国各地で「事件の真相究明と責任者処罰」を求めるキャンドル集会が開かれ、公園内の掲示物には「ヒョスン、ミソンのキャンドル精神を継承し、自主・平和・統一の新しい世の中を作ろう！」と

明記されていました。

午後からは行進です。この日は3日間の中で最も長い距離(約23キロ)を歩き、峠越えが辛かったことが記憶に残っています。

21日は、対岸1.4kmの距離に朝鮮が見えるエギ峠展望台を訪問した後、喬桐(キョドゥン)大橋(喬桐島と江華島を結ぶ橋)に移動し、ここから行進が始まりました。喬桐大橋は民間人出入統

制区域に指定されており、私たち海外同胞は事前に旅券番号などの申告が必要で、橋を管轄する軍人が橋を渡りきるまで行進団の先頭を担いました。

その後も徒歩は続き、夕方、無事全日程が終了しました。

夜は行進団の解団式が宿舎で行われ、10日間歩き通した参加者などに功労の意味を込めた記念メダルがチョ総団長から一人一人の首にかけられ、海外から参加した私

たちも特別にメダルを頂き、その後、寝食を共にした仲間でマッコリを飲みながら、ノレチャラン(のど自慢)で大いに盛り上がりました。

22日は停戦70年平和大会に参加するため、バスでソウル市内まで移動、韓統連代表団メンバーとも久々に顔を合わし、共に平和行進と大会に参加しました。

行進中、行進団のメンバーから何度も「ソンイル氏、大丈夫か?辛くないか?」と声をかけられました。

私は今回の平和大行進を通じ貴重な経験をしました。歩いてDMZ近隣の峠を越え、畑や有刺鉄線が張り巡らされている横を歩く中、南北分断の現実をあらためて実感しました。

今回の貴重な経験を広く伝え、今後の活動に活かしていきます。



▲ヒョスン・ミソン平和公園を訪問した崔副事務長

【コラム】

薔花と紅蓮

『薔花紅蓮伝 (チャンファホンニョンヂョン、そうかこうれんでん)』は我が国の古典小説だ。薔花と紅蓮の二人の姉妹が継母から陰湿な迫害を受けて命を落とし、亡霊となった二人が時の府使(地方長官)に恨みを訴え、その事実を明らかにするという怪談だ。

この物語はこれまでに何度か映画化され、韓国では広く知られている。少し長いが基本的なあらすじを引用すると以下の通り。

「①世宗の時代(1419~1450)、平安道鉄山郡に裴武龍という座主(地方の士族・郷吏をまとめる長)が住んでいた。ある日、妻の張氏が花の仙女の降りてくる夢を見て、長女の薔花と次女の紅蓮が生まれた。しかし幼い薔花と紅蓮を残して、張氏は亡くなってしまった。

②父の裴武龍は後妻の許氏を迎え、さらに三人の息子をもうけた。すると後妻は薔花と紅蓮を虐待しはじめた。薔花に縁談がもちあがると後妻は家産が減るのを厭い、鼠の死骸を用いて薔花が流産したと偽り、不貞をなじって家から追い出させた。さらに後妻は自らの息子に命じて、薔花を池に投げ込んで殺した。夢で姉の死を知った紅蓮は、薔花が殺された池に向かうが、悲しみのあまり紅蓮も池に身を投げて自殺した。

③その後、薔花と紅蓮は亡霊となって、鉄山郡の府使に恨みを訴えるが、府使は亡霊に驚いて死んでしまう。そのような鉄山府使の怪死が何度も起こり、新たな府使の候補が居なくなった。そこに鄭東祐という勇気ある若者が名乗りでて、鉄山府使として任じられた。鄭東祐は深夜に現れた薔花と紅蓮の訴えを聞き、真実を明らかにして後妻とその息子を処罰した。

④その後、裴武龍の三度目の妻である尹氏の子供として薔花と紅蓮は生まれ変わり、鄭東祐の子

供たちと結婚し、幸せに暮らした」。

陰惨な継子いじめ、家長の無理解、そして亡霊となった薔花と紅蓮、鉄山府使の連続怪死事件、やがて勇気ある新任府使が二人の美人姉妹の恨みを晴らす復讐譚。民衆小説としては典型といえるモチーフが山盛りだ。

この怪談は実際にあった事実が基とされている。

1656年(孝宗7)、全東屹という武臣が鉄山府使に着任した時の逸話だ。後に全東屹の八代孫が1818年(純祖18)に作らせた全東屹の事績記『嘉齋事實録』にはこうある。

「(全東屹公は)鉄山都護府使を拝した。着任の日、独りで客舎に入り夜に火を灯して周易(儒教の經典の一つ)を読んでいたが、そこに冤罪の怨みを抱えた二人の娘の亡霊が現れ、庭先で恨みを訴えた。そこで(全東屹公は)裴氏の二人の娘の冤罪を雪いだ」。

全東屹の事績が時系列で並べられていく中、何気なく幽霊の話が交じるといふ奇妙さがある記述だ。この

他の全東屹の事績が人徳厚く有能な武臣の功績ばかりのため、この怪談の異様さがより際立つ。

さらに『嘉齋事實録』では、この淡々とした記事とは別個に、薔花紅蓮の事件をわざわざ章立てて長文で詳しく書き記している。おそらく全東屹をめぐる逸話として長年語り草となった結果、随分と尾びれがつき、ついに小説になったものかと思われる。色んな要素を取り込んだこの長い物語を、後孫は是非とも後世に残したかったのだろう。

後にこの怪談は、時代を孝宗代から世宗代に変えて、府使の名前を全東屹(チョンドソク)から鄭東祐(チョンドソウ)に変えて、ハングル小説として人々の間に広く流布されるものとなった。美しい姉妹の恨(ハ)を解くという物語は、民衆の嗜好にぴたりと適ったものとみられる。(好)



▲『薔花紅蓮伝』を翻案した
ホラー映画『薔花、紅蓮』

尹錫悦政権下での韓国社会の 現状について認識を共有する 韓統連セミナー2023

韓統連セミナー2023 シリーズ「尹錫悦政権とどのように向き合うか」第3回(最終回)

「尹政権と韓国民衆～経済、労働、教育、ジェンダーなどの視点から～」が7月9日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

セミナーでは、金隆司(キム・ユンサ)大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「尹錫悦政権＝検察共和国と言われてきたが、最近では極右政権と評されるほど民主政治に逆行する政策を行っている」と述べ、「今回は韓国民衆の闘いを共有しながら、尹政権退陣運動を進めるための認識を共有しましょう」と語った。

次に、金昌範(キム・チャンボム)大阪本部副代表委員が報告を行った。金副代表は初めに尹政権発足



▲スライドなどで解説する金昌範副代表委員

後の経済状況について「今年に入り失業率が20代7.0%、30代2.7%、就業者の多くは非正規労働者で、若者の低く不安定な経済状況が少子化の大きな要因の一つである」と指摘するとともに、「一方で尹政権は、財閥優遇の経済政策を

とり、民主労総を徹底して弾圧している」と語った。

そして「尹錫悦大統領は徹底した親米・反共思想で南北の緊張関係を増大させ、韓国社会の萎縮と分裂を拡大させている。尹政権を倒すためには弾圧を受けている民主労総を支援し、来年の総選挙で共に民主党だけでなく進歩政党も躍進することが求められる」と主張した。

報告後は活発な質疑討論と崔誠一大阪本部事務局長から、7月22日にソウルで開かれる「停戦70年朝鮮半島平和行動」に参加する代表団が紹介され、終了した。

◆◆行事紹介◆◆

<p>汚染水海洋投棄阻止！尹錫悦政権退陣！ 光復節78周年記念 在日韓国人関西地域集会</p> <p>日時：8月13日(日) 午後1時30分 受付 午後2時 開会</p> <p>場所：尼崎中小企業センター (阪神尼崎駅下車徒歩5分)</p> <p>内容：停戦70年朝鮮半島平和大会報告 情勢講演 他</p> <p>参加費：800円(青年学生500円)</p> <p>主催：韓統連関西協議会 090-3822-5723 (崔)</p>	<p>第28回統一マダン生野プレ企画 朝鮮半島とアジアの平和を考えるつどい</p> <p>日時：8月27日(日) 午後1時 受付 午後1時30分 開会</p> <p>場所：クレオ大阪中央4Fセミナーホール (地下鉄四天王寺夕陽丘1番出口から徒歩5分)</p> <p>講師：康宗憲 韓国問題研究所代表</p> <p>参加費：800円 (障害者・学生・75歳以上500円)</p> <p>主催：第28回統一マダン生野実行委員会</p> <p>問合せ：090-3822-5723 (崔)</p>
---	---

編集後記

DMZ 平和大行進中は天候に恵まれ、とても暑かったです。歩きながら汗を拭くと塩の臭いが分かるぐらい汗をかきました。これからは光復節78周年集会、統一マダン生野に向けて汗をかきます。

(ソン)



